

中年期における世代間の援助交換に関する日韓比較研究

韓 仁熙（東京大学大学院）

1. 背景と目的

本研究の目的は、日本と韓国において中年期の子どもが親とどのような援助交換関係を形成しているのかを明らかにすることである。両国は、少子高齢化の進行が他国に比べて著しく速く、家族構造に急激な変化が生じてきた社会である。一方で、福祉・家族政策のあり方や親子間の相互扶助に対する期待には相違がみられ、こうした日韓における世代間援助の実態とそのメカニズムを比較することには大きな意義があると考えられる。

本研究では、成人子が親から受けた援助に対してどの時点で返礼を行うのかに着目し、親子間の援助交換を即時的な交換と長期的互酬性（long-term reciprocity）に区分して検討する。とりわけ、過去に受けた援助に対して数年後に返すという長期的互酬性が、日韓の親子関係においてどのように成立しているのかを明らかにする。

さらに、援助交換関係に影響を与える要因として、親の社会経済的地位と子の性別に着目する。先行研究では、親の階層により親から子への援助に差があることが指摘されてきたが（Kalmijn 2024）、子から親への援助における階層差については十分な検討がなされていない。動員可能な資源や他のサポート源へのアクセスは社会経済的地位によって異なる可能性があり、援助交換には階層性が潜んでいると考えられる。また、性別によって親族関係において期待される役割が異なること（大和2017）を踏まえると、交換関係が性別によって異なる形で現れる可能性も想定される。

以上の問題意識のもと、本研究は筆者が独自に実施した日韓比較調査データを用いて、長期的互酬性が日本と韓国の親子関係においてどのように現れているのか、またその関係が親の社会経済的地位および子どもの性別によっていかに異なるのかを明らかにする。

2. データ

本研究では、2025年2月に日本と韓国で実施した独自のオンライン調査データを用いた。調査対象は、日本と韓国全国に居住し、少なくとも一人の親が生存している40-59歳の男女である。サンプルは、各国の大手調査会社が保有するパネルから抽出し、性別・年代・居住地域別の人口構成比に基づいて割付を行った。最終的に、日本2000名、韓国1700名から回答を得た。

親への援助については、過去1年間に親に対して行った経済的・道具的援助の頻度で測定した。一方、過去に親から受けた援助については、学費や在学中の生活費、結婚・出産・育児に関する援助といった成人移行期における援助の種類と程度を回顧的に測定した。親の社会経済的地位の指標としては、親の最終学歴を用いた。

3. 主要結果

第1に、韓国においては、成人移行期に親から援助を受けた経験が、現在の親への援助と必ずしも結びついておらず、両者のあいだには弱い、あるいは負の関連がみられた。韓国では、親への援助が過去の援助への返礼としてではなく、老親のニーズや子の資源状況といった現在の状況によって規定される傾向が示された。

第2に、日本では援助交換における性別差が顕著であった。親が高学歴である日本女性において、成人移行期に親から受けた援助と現在の親への援助のあいだに正の関連が確認され、長期的互酬性が成立していることが明らかとなった。この結果は、長期的互酬性が社会的文脈、親の社会経済的地位や性別役割といった構造的要因によって媒介されることを示唆している。

4. 参考文献

Kalmijn, Matthijs, 2024, "Parents' Socioeconomic Status and Support to Adult Children Across the Life Course," *Journal of Marriage and Family* 86(1): 7-29.

大和礼子, 2017, 「親・義親との援助関係における『夫婦の個人化』?——第3回全国家族調査（NFRJ08）の分析から」『人口問題研究』73(1): 58-77.

【付記】本稿の分析に用いたデータは、JSPS 科研費 JP23KJ0489 の助成を受けて収集したものである。

キーワード：世代間援助、長期的互酬性、日韓比較